

(別添様式)

環境保全型農業直接支払交付金
東京都 最終評価報告書

第 1 章 交付状況の点検

項 目		27 年度	28 年度	29 年度	※30 年度 (見込み)	点検
実施市町村数		0	1	1	1	27 年度は実施市町村 がなかったが、28 年度 より 1 市で実施 実施面積は減少
実施件数		0	1	1	1	
実施面積計 (ha)		0	0.97	0.96	0.74	
交付額計 (千円)		0	70.4	69.6	55.6	
カバークロープ	実施件数		1	1	0	複数取組支援終了に よる減
	実施面積 (ha)		0.10	0.09	0	
	交付額 (千円)		8	7.2	0	
堆肥の施用	実施件数		1	1	1	複数取組支援終了に よる減
	実施面積 (ha)		0.20	0.20	0.1	
	交付額 (千円)		8.8	8.8	4.4	
有機農業	実施件数		1	1	1	複数取組支援終了に よる減
	実施面積 (ha)		0.67	0.67	0.64	
	交付額 (千円)		53.6	53.6	51.2	
地域特認取組 (総計)	実施件数		0	0	0	当地域には、バンカ ープランツの植栽の取 組はみられない
	実施面積 (ha)		0	0	0	
	交付額 (千円)		0	0	0	
特別栽培農産物 認証状況	栽培面積 (ha)		0	0	/	エコファーマーは、 東京都エコ農産物認証 制度への移行により減 少
	農家数 (戸)		0	0		
エコファーマー認定件数		248	116	75		

第2章 環境保全効果（地球温暖化防止及び生物多様性保全）の評価

1 地球温暖化防止効果

（平成29年度調査）

項目	実施件数	調査件数	単位あたり 温室効果ガス削減量 (t-CO2/年/ha) ①	実施面積 (ha) ②	温室効果ガス削減量 (t-CO2/年) ①×②
カバークロープ	0	0	—	0	
堆肥の施用	1	1	0.11	0.2	0.022
地域特認取組(*)					
バンカープランツの植栽	0	0	—	0	—

【評価】

堆肥の施用の取組における、単位当たりの温室効果ガス削減量は、0.11 t / ha / 年であり、実施面積を乗じた削減量は0.022 t / ha / 年であった。実施面積が小さいことから、その効果は小さくなった。

また、「見える化サイト」での総合評価では、温室効果ガスの排出量は、6.04 t / ha / 年となったが、標準的管理と比較すると、0.34 t / ha / 年の削減効果がみられた（下表参照）。

結果(温室効果ガス総合評価)		あなたの管理	標準的管理 (初期設定)
土壌炭素の増減によるCO2(プラスが排出。マイナスが吸収)	tCO2/ha/年	-0.72	-0.61
N2O	kg-N2O/10a	0.21	0.28
同CO2換算	tCO2/ha/年	0.62	0.85
化石燃料由来のCO2	tCO2/ha/年	6.14	6.14
合計(プラスが排出。マイナスが吸収)	tCO2/ha/年	6.04	6.38

(平成 30 年度追加調査)

項 目	実施件数	調査件数	単位あたり 温室効果ガス削減量 (t-CO2/年/ha) ①	実施面積 (ha) ②	温室効果ガス削減量 (t-CO2/年) ①×②
カバークロープ	1	1	1.23	0.09	0.11
有機農業	1	1	0.34	0.67	0.23
堆肥の施用	0	0	—	0	—
地域特認取組	0	0	—	0	—
バンカープランツの植栽					

【評価】

カバークロープの取組における、単位当たりの温室効果ガス削減量は、1.23 t /ha /年であり、実施面積を乗じた削減量は0.11 t /ha /年であった。有機農業の取組における、単位当たりの温室効果ガス削減量は、0.34 t /ha /年であり、実施面積を乗じた削減量は0.23 t /ha /年であった。

また、「見える化サイト」での総合評価では、カバークロープの取組による温室効果ガスの排出量は、10.36 t /ha /年となり、標準的管理と比較すると、0.71 t /ha /年の削減効果がみられ、有機農業の取組による温室効果ガスの排出量は、15.6 t /ha /年となり、標準的管理と比較すると、1.41 t /ha /年と大きな削減効果がみられた(下表参照)。

① カバークロープの取組

結果(温室効果ガス総合評価)		あなたの管理	標準的管理 (初期設定)
土壌炭素の増減による CO2(プラスが排出。マイナスが吸収)	tCO2/ha/年	-1.86	-0.64
N2O	kg-N2O/10a	0.22	0.28
同 CO2 換算	tCO2/ha/年	0.46	0.83
化石燃料由来の CO2	tCO2/ha/年	9.25	9.25
合計(プラスが排出。マイナスが吸収)	tCO2/ha/年	10.36	11.07

② 有機農業の取組

結果(温室効果ガス総合評価)		あなたの管理	標準的管理 (初期設定)
土壌炭素の増減による CO2(プラスが排出。マイナスが吸収)	tCO2/ha/年	0.65	0.99
N2O	kg-N2O/10a	0.15	0.28
同 CO2 換算	tCO2/ha/年	0.65	0.84
化石燃料由来の CO2	tCO2/ha/年	16.81	16.81
合計(プラスが排出。マイナスが吸収)	tCO2/ha/年	15.6	17.01

2 生物多様性保全効果

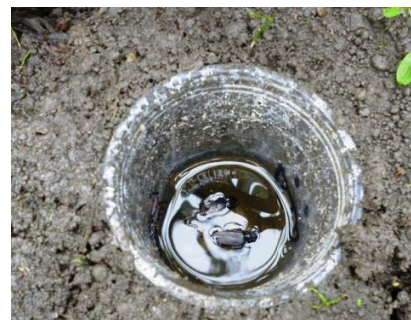
項目	実施件数	調査件数	実施面積 (ha)	調査結果			
				スコア		評価 (S~C)	
				実施区	対照区	実施区	対照区
有機農業	1	1	0.82	0	0	C	C
地域特認取組(*)							
バンカープランツの植栽	0	0	0	-	-	-	-

【評価】

生物多様性保全効果については、有機農業（ネギ）の取組において、調査マニュアルによる生きもの調査を実施し、有機農業の取組でゴミムシ類等（ゴミムシ類）、クモ類に捕獲個体数を確認したが、スコア及び評価では、その差はみられなかった。

生きもの調査結果(ピットフォールトラップによる)

作物	処理区	指標生物	個体数 (トラップ・7日)	評価基準 (スコア)	評価 (判定)
ネギ	実施区 (有機農業)	ゴミムシ類等 (ゴミムシ類)	1.5	0	C
		ゴミムシ類等 (ミイデラゴミムシ)	0	0	
		クモ類 (コモリグモ類)	1	0	
		捕食性カメシ類 (オオカメシ類)	0	0	
	対照区	ゴミムシ類等 (ゴミムシ類)	0	0	C
		ゴミムシ類等 (ミイデラゴミムシ)	0	0	
		クモ類 (コモリグモ類)	0	0	
		捕食性カメシ類 (オオカメシ類)	0	0	



写真：上段実施区（有機農業）、下段対照区（慣行栽培）

(2) 今後の対応方針

取組名	今後の対応方針
バンカープランツの植栽	本事業の取組市町村が1市のみであり、地域特認取組の申請のない状況にあるが、都では、IPM 技術としてバンカープランツの植栽を推進している。本技術は、特認取組で支援することにより、都内の環境保全型農業に取り組む生産者への普及拡大が見込まれるため、今後、取組市町村を増やすとともに、地域特認取組の実施市町村への働きかけを積極的に実施していく。